

「在職 42 年を振り返って」

事務局長 橋田 博昭

2019年7月末を持ちまして、広島県歯科医師会を退職するに当たり、回顧録を記させていただきます。

先達の先生方を含め、会員の先生方には現職で40年間、囑託として2年間の長きに亘りご厚誼を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

思い起こせば、昭和53年3月に大学を卒業、同年4月から1カ月の試用期間の後、5月1日正式に本会職員に採用され、国民健康保険課（現国保組合）に配属されました。

入職した時は、ちょうど河村執行部から、澁川執行部にバトンタッチされた時で、70周年記念式典を迎えて慌ただしい中、右も左も分からない新人が入り込んだという感じでした。

その後、10年間は毎日机上に山積みされたレセプトの計算や国保会計処理に追われておりました。元来、文科系の自分がそばんや会計なんて無理と思いつつも、数年やっていたら何とかなるものとは思いましたが、当時の桜井事務局長（故人）や原、青井（故人）、山本、斉藤氏（故人）といったその後の歴代事務局長に随分ご迷惑をかけたと思います。

小生の歯科医師会における転機は、入職後3年くらい経った頃でしょうか、中村博先生（当時保険担当常務理事）から、保険部の仕事を手伝ってみたいかと、お声かけいただき、当時は、各部に担当職員がない時代でもありましたが、事務局の保険担当に抜擢されてからではないかと思ひ起こします。

最初は、歯式もまともに読めませんでした。県の技官や役・委員等にもご指導いただき、少しずつ理解でき始めました。その後、20数年間、人事異動があっても、保険担当だけは外されることなく続けました。

当時は、毎月1日の午後5時から午後8時までは保険相談日で、土日、主期日関係なく、お正月も、保険担当の先生方と事務所に詰めておりましたが、今から思えば古き良き思い出であり、終わった後の慰労の宴も楽しく過ごさせていただいたものでした。

話が逸れてしまいましたが、昭和58年に松島執行部が発足し、小生は、昭和62年に業務課へ配置転換になり、以降、平成16年4月に事務局長を拝命するまで、事業部畑一筋に、秘書室、口腔保健課、歯科医師連盟を兼務しながら歩んで参りました。

時代は、昭和から平成へと変わっていく中、政治連盟の設立、医事対策組織委員会の設置、そして平成元年4月のエソール広島の完成に伴う、歯科衛生士専門学校の落成、同年9月には県歯科医師会館の全面改修工事が完了し、新しい口腔保健センター（愛称：歯っぴーセンター）も完成し、本会も大きく発展を遂げた時期に入りました。

その間、会長のお供で日本全国へ随行し、各都道府県の役職員の方々と交流させていただき、今なお親交を持たせていただいています。

自分自身も、いつの間にか若手から中堅職員として、全ての事業に関わるようになり、成長させていただき、苦労も多々ありましたが、その後の礎ともなりました。

歯科医療においても、CUREからCAREへと診療体系も大きく変化した時代を迎えました。

日本歯科医師会が厚生省（現厚生労働省）と共に「8020運動」を提唱したのはちょうどこの頃であったと思います。本県においても8020運動の前段階として「5525運動」を提唱し、広島県歯科保健大会等のイベントで県民にアピールしたり、全会員の医院名を新聞告知して、無料歯科相談を実施するなど会を挙げて普及啓発を行いました。

平成9年に、本山執行部が誕生し、富士見町の会館敷地を県から購入、宝町に国保会館の土地、建物の取得等、会員の財産を次々に増やされた時期でもありました。

これを足掛かりに、平成19年に誕生した、山科執行部において、二葉の里の現有地を国から取得し、後の荒川執行部へと引継ぎ、新会館建設に入り、平成29年1月の会館竣工に漕ぎ着けることができました。

このように、歴代会長の英断のみならず、先達の先生方のご努力により、広島県歯科医師会は全国からも注目され、一目置かれるほどの会に向上発展したことは、会員はもとより、我々事務局職員にとっても大きな誇りであり、その責任者として一端を担うことができたことは、小生の一生の宝であり、よき思い出でもあります。

戦後7代目の事務局長を拝命してからの役14年は浅学非才な上に能力不足から、職責の重大さや、山積している諸問題で押しつぶされそうになったことも幾度となくありましたが、仲間や後輩たちに支えられ、何とか職責を全うし、無事定年を迎えることができました。

入職当時に掲げた「無事これ名馬なり」は、元来の不摂生から、平成8年に心筋梗塞を患いましたが、軽度で済み、何とか乗り越えることもできました。

時代やスタッフは変わっても、広島県歯科医師会は永遠に不滅です、どんな時代が到来しようとも、この組織を継続していける優秀な人材が次々と現れるでしょう。

令和の時代を迎え、広島県歯科医師会の明るい将来へ望みを託し、今までご縁をいただいた全ての皆様に感謝の意を表しまして、小生の42年を振り返っての言葉とさせていただきます。

本当に有難うございました。